

エリクソンはヘリー・ハンセンと同じ北極の代表的企業だ。そのレーシングチームがヘリー・ハンセンのセイリングウェアとフットウェアを備えてボルボオーシャンレースを戦う。これは「海のバリダカ」とも称される過酷な世界一周オフショアレースである。波の上にいる約9カ月間、男たちはヘリー・ハンセンのウェアをはきんで海と対峙する。その結果もたらされるウェアの機能評価が、ヘリー・ハンセンにとってさらなる高みを指すモチベーションとなり、やがては新しい製品に反映されていく。

Photo/Ericsson Racing Team

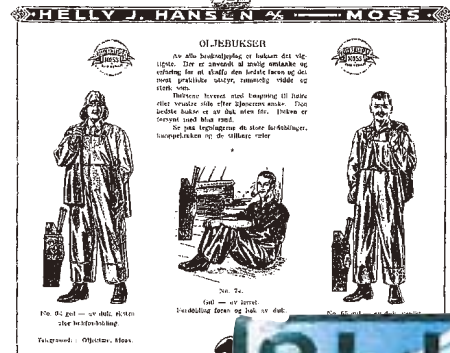


【ヘリー・ハンセン物語】 HELLY HANSEN

グレートブランド物語

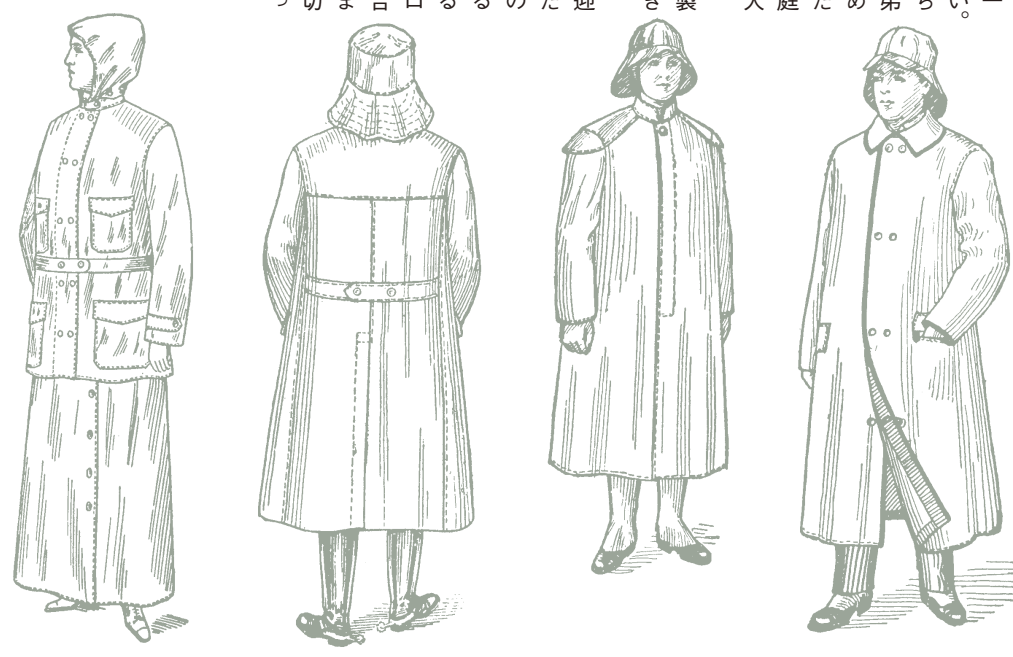
Great Brand Story

第18回：文と構成／河村喜代子



上は20世紀初頭のヘリー・ハンセンのカタログ。右の海馬にまたがる海神がいる表紙のカタログは1926年頃のもの。当時の主力商品は防水のワークウェア。後ろの緑が広いソールウエスターは現在は消防帽子として知られるが、もとは水夫が暴風雨時にかぶった。同じくオイルクロス製のレギンスとオーバーオールにジャケットがある。ヒップや裾回りなどくに丈夫につくってある部分は、布を二重にして補強してある点をイラストで描き出している。

Pamphlets/
Courtesy of Helly Hansen



「機能する。」それが130数年前と現在をつなぐ言葉だ。ヘリー・ハンセンが機能する素材を働くかたちにする時、妥協を一切入れない海という実証者がいつもそばにいる。19世紀末ノルウェーのモスではじまったヘリー・ハンセンのオイルクロスは、消火バケツになり、海の上で働く男たちを守る防水の服になった。

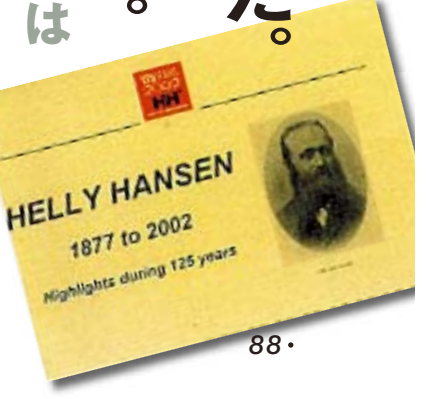
わずかに角度がついたHの文字を並べたロゴマークで知られるヘリー・ハンセンは、1877年にはじまっている。場所はノルウェーのモス。眼前には北海が広がる。季節風が吹く冬は、荒れることと知られる激しい海だ。当時はニシン漁が盛んだったが、現在、海からもたらされる富は海底油田に眠っている。

ヘリー・ジュエル・ハンセン本人は、15歳のときから北海で働く男になり、25歳で船長の資格を得ている。冬、海に出られないあいたは、モスの町で航海法を教授する学校を開いた。学校が入っていた建物は、ブレマーガルデンと呼ばれて今もモスの町にある。ヘリー・ハンセンの原点にいたのは、海に乗り出す知恵と技術を兼ね備えた人物だったこととなる。

そこから130年あまりを隔てた現在を結んでいるのは、一枚の布である。それがウォータープルーフという機能を備えたオイルクロスだった。当時の防水布づくりには亜麻という植物から採ったオイルを使った。それを熱して刷毛で繰り返し塗り、火の気のない地下室や乾燥場にするして数日乾かす。防水機能をもたせるまでには、一度の作業では終わらない。漁師の家では妻や娘たちが父親や兄弟たちのためにする仕事だったが、家庭でやるには大変な作業だ。そこに工場製品が入手できることになったら、どれほど歓迎されたことだろう。北海の激しさを知る人物がつくるオイルクロスは、縫い合わせの細部まで、期待を裏切ることにはなかつた。

たのだろう。会社設立の翌年、パリの万国博に出品して賞を授かっている。

右)2002年に出されたヘリー・ハンセン125年の歩みを年代毎に記した冊子。左)1900年ごろのカタログより。防水衣料が仕事をやる場所を離れてふだんの生活へと守備範囲を広げる。



北海生まれのマリンウェアと
ヘリーハンセンという
ブランドが持つ力の正体

Photo/Ericsson Racing Team

ヘリーハンセンは、ヨットレースのボルボオーシャンレースで優勝したエリックソン・レーシングチームに対してオフフィシャルウェアを提供している。チームワークと航海術で海を渡るレースは、彼らが身にまとうマリンウェアのように華やかでスマートだ。そのレースを現代の華麗なる冒険ロマンといった言葉で語れるものとするには、背後に頑強な肉體があり、正しい状況判断を下させる経験と知恵が備わっていないければならない。また彼らが着るマリンウェアとは、いわゆるファッションイブルな呼称の服ではない。海で機能する服そのものであり、基本は防水だ。この一点は、どれほど時代が進んでも変わらないが、それを実現する技術は繊維の構造レベルで改革されてきた。動く肉體が発する熱や汗を逃して、体力を奪う原因を排除することも可能にしてきた。

エリックソンのロゴマークをのせたチームウェアは、スポーティなだけでなく胸がすく大胆さと力強さがある。それはノルウェーという土地で生まれたことと、どこかでつながっているはずだ。ブ

ランドが持つ力の源泉は、原点にあった防水布がそうであったように機能する力にある。それは海の男たちが信じた服にほかならない。マリンウェアとは、彼らにとってのワークウェアであり、命を託す服だ。零度を下回るベリング海でカニ漁をする漁師たちもヘリーハンセンを着る。彼らの仕事場は実際、海に落ちたら間違いなく命の危険がある。

防水はアウトドアウェアの基本機能だ。ただし現在では、それだけでは満足できない。同時に湿度を逃がす動きを兼ねていなければならぬ。相反する要求に対する答えとして、ヘリーハンセンにはヘリーテックと呼ぶ技術がある。これは3種類のスペックが開発されており、最高位のヘリーテックXPでは450分の洗濯後になお5000mm以上の耐水圧を保持する。透湿性は標準機能に比べて高い。防風や寒暖に対する防護機能など、最高の身体能力を引き出すために働く機能開発は、進化をつづける。



Boat neck Border Sweater
マリンウェアらしい爽やかなボーダーのクルーネックセーター。もちろんタウンユーズにも。ディープネイビーにホワイトボーダーなどカラーバリエーション4種を揃える。価格1万9950円



Lifa Sweater
素材には水や汗を一切含まずに外部に放出するポリプロピレン100%のリファニットを使用。写真のウェットロープカラーのほか、ディープネイビーなどシックな色を揃える。価格1万9950円



Andenes Jacket
表地には静電気抑止素材を使用。裏地にはマイクロフリースを用い、ハンドウォーマーポケットなど防寒性への配慮も。ライフジャケットを装着するループも装備している。価格1万6800円



Sailing Jacket
セーリング用ウェアの基本を盛り込んだヘリーテックXPの2レイヤー地とメッシュ地を使うことでしなやかな風合いに仕上げている。価格2万9400円



Geiranger Vest
軽量、撥水性に富んだ新素材を使用し、光電子ダウンにて保温性を確保。水や風の侵入を防ぐことによって、海上での体力消費を抑えてくれる。価格1万9950円(10月発売予定)



Eidsvoll Jacket
中綿には過剰効果による保温持続性を付加した光電子素材と速乾性の高い撥水中綿を組み合わせた新素材「光電子プリマロフト」を使用。全体的展開。価格2万6800円(10月発売予定)

Ocean Jacket
耐水圧45,000mmの極めて高い耐久防水性を誇る「ゴアテック ス パフォーマンスシェル」を採用し、ゴアシーム、止水ファスナーにより最高レベルの防水、防風性を誇る高機能防水ジャケット。価格5万400円



ICE CREW
北極熊の毛からヒントを得た中空繊維とスーパーメリノウールからなるHHウォームを使用したアンダーウェア。暖かさ快適性を実現する。価格7875円(10月発売予定)



STRIPE T
水や汗を一切含まずに外部に放出するポリプロピレン100%の素材HDドライを採用。冬は暖かく、夏は肌をドライに保つ特性があり、通年着用が可能。価格4830円





⑦「HELLY TECH Hat」防水透湿性に優れた素材ヘリーテックを使用したレインハット。価格6090円 ⑧「Middle gauge Stripe Beanie」定番のニットキャップ。価格3990円 ⑨⑩⑪「Sailing Jacket」本格的な仕様を盛り込みながらも、軽さとシンプルなデザインを追求したセーリングジャケット。視認性の高いイエローカラーのフードは収納可能。価格2万9400円 ⑫⑬「Sailing Pant」セップは縫い目のない一枚仕立ての構造で防水性と耐久性を確保するセーリングパンツ。価格2万6250円 ⑭「Dry Suit」首元、袖口、足首にラテックスゴムを採用し海水の浸入を防ぐドライスーツ。価格7万9800円

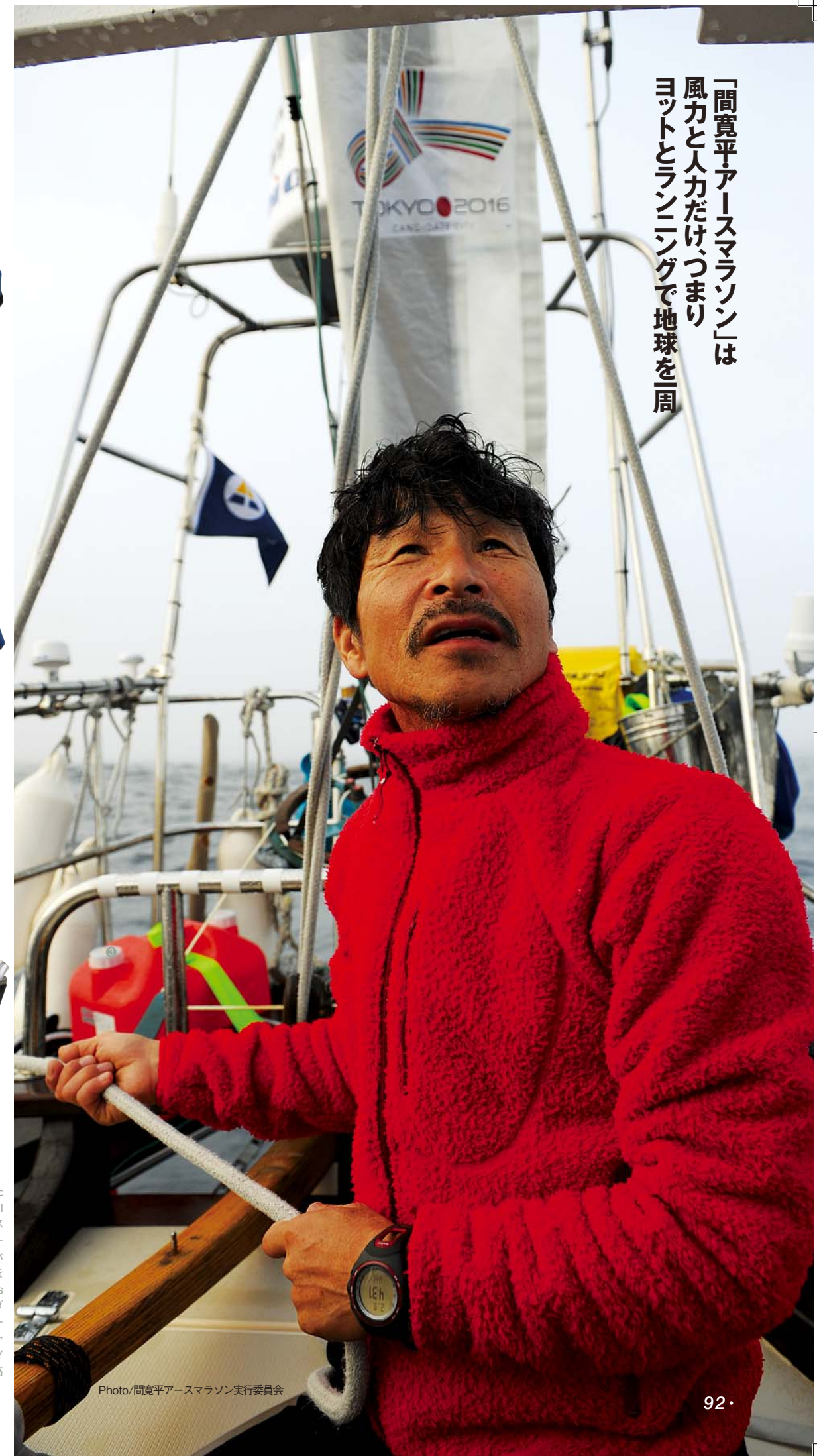
ウエアは冒険を果たすツールになる。いつも正しくフィードバックしてくれる人を持つことが、ツールとしての機能を高める上で欠かせない。ヘリーハンセンが冒険者たちのオフィシャルサプライヤーを務めるのは、動かせない現実の声を聞きたいからだ。アースマラソンに挑む間寛平氏も現実に正直に向き合う人であるはずだ。そうでなければ肉体が冒険についてこない。冒険の場でウエアがツールの役目を果たして、正しく働けば冒険は成立し、夢に届く。



⑮「In Shore Light Jacket」本格ボートレース用軽量ジャケット。左胸元のポケットに小さく丸めて収納可能なパッカブル仕様。メタリックシルバーとディープネイビーの2色展開。価格2万1000円 ⑯「STRIPE CREW」オールコンディション対応のベースレイヤー。速乾性の高い素材HELLY DRYを採用し、汗や海水による不快感、体力の消耗を軽減させる。袖から肩のラインには1970年以降のアイコンとして親しまれているストライプをあしらう。価格5145円

Photo/Naganori Tsutsumi (WPP)

①「デイバッグ」防水コーティングを施したデイバッグ。価格1万3650円 ②「Sail Cloth Duffl」素材にはセルクロスを使用。価格2万2050円 ③「ウォータープルーフバックM」ウォータープルーフバックは縫い目をなくすることで高い防水性を実現。価格1万2600円 ④「Canvas Shoulder」厚手の帆布製小型ショルダーバッグ。価格8925円 ⑤「メッセンジャーバッグ」防水性に配慮したメッセンジャーバッグ。価格1万2600円 ⑥「HELLY WELLY」防水・透湿素材を採用した高機能ブーツ。価格2万9400円 ⑦ヘリーハンセンらばーと豊洲店 ☎03-6910-1261



「間寛平・アースマラソン」は風力と人力だけ、つまりヨットとランニングで地球を一周

Photo/間寛平アースマラソン実行委員会